

# 題名 「私の考える介護」

氏名 山岸 美依奈

私の家のとなりで、祖父と祖母が二人で暮らしていました。ところが、動脈解離で突然祖父が亡くなってしまったのです。そのため、現在は祖母一人で暮らしています。祖母は、大きな病気をかかえているわけではありません。しかし、高齢ということもあり、体がおとろえ始め、行動もゆったりとしています。そんな祖母をこれまで祖父はいろいろな面で支えてくれたのです。祖父がいなくなり、これからは私が祖母の生活をサポートしていかうと考えています。

現在の祖母は、長い時間立っていることも、大変です。なので、手押し車や杖を使って歩行しています。また、段差にも苦勞しています。お風呂の段差を少しでも減らそうと踏み台を置いています。

このような工夫をすることで普段の生活が少し楽になると言っています。

外出する時は、家の中と違うので、少し不安が

あるようです。しかし、出かけてみると様々な  
場面で助かることがあるそうです。例えば、スー  
パーへ買い物に行った時、カートを見つけると決ま  
って押しています。それは、六本の足で体を支え  
ることになるため、歩くのが楽になるからです。  
さらに、出かけた場所に階段がよくあります。  
そんな時、手すりがあると安心すると言っていま  
した。手すりにつかまっただの上り下りが楽なのだ  
そうです。また、段差の無いスロープだと、手押  
し車を押したまま歩行できるのでうれしいとい  
うことでした。身近なところに、全ての人が少し  
でも安心でき、便利に暮らせるような工夫がさ  
れているということに改めて感じました。思いや  
りのある地域に住んでいることを知り、本当に  
幸せに思います。

私は、祖母の助けになると思い込み、祖母のし  
ようとしていること全てを私がやってしまうこと  
があります。しかし、祖母にとってはお節介かも  
しれません。自分のペースでやりたい時があると  
思います。なので、これからは祖母が手伝ってほ  
しいときは、サポートし、見守っていてほしい時に

はそつと見守るようになっていこうと思います。

私は、介護について考えていく中で、高齢の方に限らず、だれにでもやさしいユニバーサルデザインという考え方があることを知りました。そういういたデザインが増えていくとみんなが安心して過ごせるのでよいと思いました。そして、祖母のような高齢の方の意見や気持ちを尊重しながら、安心して生活でき住みやすい街になっていくことを願います。

祖父の死をきっかけに介護について深く考えることができました。これから、相手の気持ちを考えてサポートし、介護につながるユニバーサルデザインを身近なところから考えてみたいと思います。それが、私の考える介護です。

# 題名 「僕のおじいちゃん」

氏名 下田 寛樹

僕のおじいちゃんは、脳の病気でねたきりになってしまいました。そのため1人では、身のまわりのことはままならなくなっていました。

そこで、家に介護用のベッドをレンタルし家でおじいちゃんと一緒に過ごすことになりました。おじいちゃんはそれまで、入院していたのであまり会えなかったけど、自宅に移ってからは毎日会えるようになったので嬉しかったです。

毎日会えるようになったのは、訪問看護してくださった看護師のおかげだと思います。看護師の方々を見て、おじいちゃんのことだけでなく僕のおばあちゃんや僕たち家族のこともサポートして下さったりアドバイスを頂きました。このように介護して下さる人達がいることで自分達も嬉しい気持ちになったしきつとおじいちゃんも介護して下さって嬉しい気持ちなどのプラスの気持ちになったと僕は思います。介護にはすごい力があるなと感じました。

他にも、おじいちゃんはねたきりだったので、お風呂に入ることができませんでした。いつも、お風呂ではなくぬれたタオルで体をふいていました。

そこで、僕のおばあちゃんが1ヶ月以上お風呂に入れていないおじいちゃんをお風呂に入れさせたい、と言う思いから訪問入浴サービスにたのむことになりました。自分も家族も訪問入浴サービスにすこしドキドキしていたけど、実際きたら、想像以上にすごくて驚きました。看護師の方がおじいちゃんの体調などを診て下さってその後おじいちゃんが入浴しました。入浴中は看護職員と介護職員の方々が入浴のお手伝いをして下さったおかげで無事に入浴することができました。入浴中おじいちゃんは少し笑顔になりました。病氣とたたかっていたいつも苦しそうにしていたおじいちゃんが「笑顔」になったのです。それには、家族もとても喜びおばあちゃんは少し涙を流していました。それくらい嬉しいことでした。たまにたまその時の様子をおばあちゃんがビデオをとっていたので、おじいちゃん「笑顔」が写っているその動画をおじいちゃんが亡くなってしまった今、

おばあちゃんはとてとても大切にしています。

最後に、介護は介護される人だけではなくその周りの家族なども支えてくれたり元気をくれたりしてくれると思います。このようなことをおじいちゃんを通して学びました。もし、介護する側になった時は、おじいちゃんから学んだことを活かして介護できるようにしたいです。

## 題名「私が思う介護」

氏名 福田 ゆずな

私は「介護」とはとても大切に素敵だと思っています。それは人の役に立ち、協力し合えるものだからです。

私の将来の夢は介護士です。私は以前、ある休みの日に母が働いている介護施設へ行きました。そこでは1人のご高齢の方に対して1人が向き合っていて、明るい空間でした。その場で母が仕事をされていて、かっこいい、私もなりたいと思いました。そこから、私もどんどんご高齢の方とお話をしたり、ゲームや体操、食事を手伝いながら楽しみました。その日のおかげで、祖母に対しての行動も変わり、「段差あるよ。」や「気を付けて。」などの声かけをしたり、一緒に何かをする機会が増えました。そして、ご高齢の方に対する思いが変化しました。このような見本になるのが母です。誰でも笑顔で振る舞い、全てキッチリやり切るように私もなりたいと思いました。このことを元に、私は2つ目標ができました。

1つ目は、介護についてのイベントやボランティアに参加することです。ボランティアをすることで誰かの役に立ち、やり切ることができると考えました。2つ目は、介護についてもっと考えることが大切だと思いました。考えることでアイデアが浮かび、行動に移すことができると思いました。知ることや見ることで、行動することで考えることができると思います。この目標をやっているうちに祖母やご高齢の方の接し方を母のように上げていきたいと思いました。もう1度介護施設に行くことでこのような目標を生かして介護について向上していきたいです。母に介護について教えてもらい知識も向上していきたいと思いました。

介護施設へ行けたら、知識を生かすこと、接し方、目標を行動に移す、楽しく明るく、笑顔でいること、この4つに気を付けてやりたいと思っています。最後にこんなことをやりとげている母はすごく、尊敬しています。母を見本として、お茶を出す、一緒に遊ぶのようになんかいい介伝いをしていき、頼られる母のようになんかいい介護士になつてご高齢の方の役に立てるような人に



なりたいです。